

服薬管理における「服薬支援箱？」の可能性
常陸大宮薬剤師会他、協力薬局における患者アンケートから

ビッグママあこ薬局

○根田 滋 協力薬局*参照

1. はじめに

服薬指導時、患者さんからのみ忘れ、飲み間違いを聞くことは多いと思います。保管状況についてはどうでしょう、聞き取りはできているのでしょうか。あまり考えていない患者さん多いらっしゃるようです。「ラスト 30cmをどう届けるか？」ここをテーマにしてみました。

2. 方法

課題解決のため一包化の患者さんに「服薬支援箱」を使っていただき、その後アンケートに答えていただいた。

(1)「服薬支援箱」：一包化薬をロール状に巻き、特別にしつらえた収納箱に収め一包ずつ引き出して服用してもらう。

分包機の設定を「繰り返」とすることで、例えば朝を服用すると、次は昼が出ているので間違えて服用することを防ぐことができる。

また、ひと箱で30日分(90包)の薬を入れることができるので、保管に場所をとることがない。



(2) アンケート内容

くすり箱を使ってどうでしたか？ (三択解答とした。)

- ① 便利でしたか？ ② 飲み忘れが減りましたか。 ③ 飲み間違いが減りましたか。
- ④ 保存、管理がし易くなりましたか。 ⑤ 今後も使いたいですか？
- ⑥ 他の方へもすすめたいですか？
- ⑦ 箱代がかかるとしたら、いくらくらいが妥当ですか？ (2~6か月使えるとして)
0円 100円 200円 300円 500円

3. 結果

多くの患者さんから今後も使用したいとの好評価を得た。

4. 考察

今回のアンケート結果から、服薬支援の方法として一包化することは一般化しているが、それをどの様に間違わず、安心して服用してもらうかという課題に対し、「服薬支援箱」は「お薬カレンダー」以外のもう一つの選択肢として有効との結論を得た。また、今後オンライン調剤が始まってくると容易な配送、保管、管理の方法としても有効と思われる。

*協力薬局：(そよかぜ薬局)、(おせ薬局)、(よしの薬局)、(スルガヤ薬局)、(こうのす薬局)、(なかとみ薬局) 以上常陸大宮薬剤師会 他(久米薬局)、(セキネ薬局)、(ひかり薬局)